

図書館だより

今月の絵柄：「もしやもしやちゃん」

マレーク・ペロニカ（福音館書店）



発行 滝上町図書館
電話 0158-29-3735

おはなし隊が 滝上町にやってくる！



読みかかせの楽しい時間を通じて、子ども達が絵本を楽しむきっかけを作りたいと、にぎやかなキャラバンカーで日本中を周っている「おはなし隊」がついに滝上町にやって来ます！
キャラバンカーには500冊もの絵本が積んであり、自由に読書を楽しむことができます。

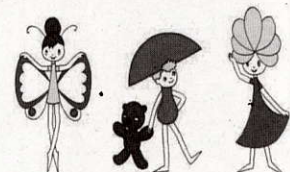
読書のあとは、おはなし隊・隊長とボランティアによる読みかかせ。帰りには、なんと！ミニ絵本やシールのおみやげまであります。

そして、当日は滝上の妖精ピコロさんも滝上のよい子たちといっしょに絵本を楽しみたいと山から下りて来るそうです。

2才～8才のお子さんが対象ですが、どなたでもお楽しみいただけます。ぜひこの機会に、親子で、お孫さんと一緒に、絵本に親しんでください。きつとすてきな夏の思い出になることでしょう。たくさんのご来場をお待ちしております。

日時 7月29日（日）午後2時30分～3時30分
場所 文化センター 正面玄関前広場

加藤多一さんの課外授業



6月14日（木）、ここ数年雨に降られたこの事業ですが、3年ぶりにお天気に恵まれました。郷土出身作家の加藤多一さんの『五月になれば』が小学5年生の国語の教科書に掲載され、物語にサクル川が登場するということで、毎年、町内の小学5年生全員で加藤さんとサクル川を訪ねます。

今年の小学5年生は全校で20名です。み

んなでバスに乗り込み、加藤さんの生家跡を見学、盤の沢で川遊びをして、直接加藤さんに作品のことなど質問してみました。全国の小学5年生がこの作品で勉強してありますが、作者とサクル川を訪ねられるのは滝上町の小学5年生だけです。



婦人画報 2012年7月号
高橋武市さんの
「陽殖園」が
掲載されました！

「オホーツクの奇跡 武市の庭へ」というタイトルの記事で滝上町の陽殖園が紹介されています。逐次刊行物（雑誌）ですが、図書館に寄贈され、ご覧いただけます。

この記事を引きかけに多くの方が滝上町に足を運んでくださるといいですね！



新 刊 案 内

(小説)

☆十津川警部 殺しはトロッコ列車で

西村京太郎

☆三匹のおっさん

有川浩

☆美しき一日の終わり

有吉玉青

☆九州大宰府殺人事件

木谷恭介

☆虹色ほたる㊦㊧

川口雅幸

☆サファイア

湊かなえ

(その他)

☆潜り人、92歳。

大崎映晋

☆体幹力を上げるコアトレーニング

木場克己

☆日本人の知らない日本語①～③

蛇蔵・海野風子

☆おりがみペットパーク フチモトムネジ

☆悲しむのは、悪いことじゃない

香山リカ

☆おかみのさんま

斉藤和枝

☆ねこ背は治る!

小池義孝

☆「学び」という希望

尾木直樹

☆おかめちゃんの納豆レシピ

タカノフーズ・監修

☆ヘルシー!豆乳レシピ

キッコーマン飲料株式会社・監修

☆みきママのめちゃうま!おうちごはん

みきママ

☆太一×ケンタロウ男子ごはんの本 その4

国分太一・ケンタロウ

☆向井理、ビストロ修行

向井理

☆テレビに破壊される脳

和田秀樹

☆避難する権利、それぞれの選択 被爆の時代

を生きる 河崎健一郎ほか

☆ひきこもりのライフプラン

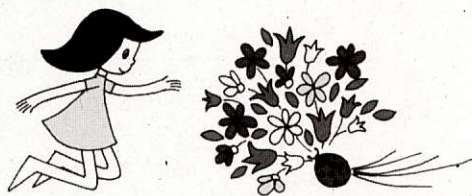
斎藤環ほか

☆運命を生きる 闘病が開けた人生の扉

浅野史郎

☆日本の保育はどうなる

普光院亜紀



読書三得



『老前整理』

坂岡洋子(徳間書店)

これはよくある片づけノウハウ本ではなく「捨てれば心も暮らしも軽くなる」中高年に新しい生き方を提案する整理本です。老いる前に、単にモノだけでなく人間関係も整理する必要がある、という視点はなかなか新鮮でした。ではいったい「老前」とは、どの時期のことを指すのか。著者の催す「わくわく片づけ講座」に参加するのは40代から70代の女性が多いそうです。人生には己の感じる節目というものが、何度かあると思われれます。そんな時期にこそ、この「老前整理」の考え方を実践してみると効果があるかも知れません。「モノ」にあふれた現在の生活を見直す、いいきっかけづくりになりそうです。

『ディズニーの教え方』

福島文二郎(中経出版)

「キャスト」と呼ばれるディズニーランドのスタッフ達。彼ら彼女らはアルバイトなのにどうしてあれほどまでに高いサービスを提供できるのか。「キャスト」の一人前に至るまでのプロセスを「教育」という観点から解き明かしている本です。アルバイトは年3回3000人を採用しているそうです。あれだけのクオリティをどう確保しているのか、まさに魔法のようですが、特に目新しい教育ノウハウが書かれているわけはありません。しかし「基本」こそ、実はもつとも大切であり、忘れてはいけないもの。テクニクも大切ですが、「人の心」をしっかり意識することが大切というものがこの本の大きなテーマと言えるでしょう。

(K.K生)